

第 2 章

山形大学教員研修会 「第 5 回 教養教育 F D 合宿セミナー」

平成17年度教養教育改善充実特別事業
第 5 回山形大学教養教育 F D 合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」



「いわかみ」 蔵王山荘管理人 長岡 仁 氏 撮影

日 時： 平成17年 8 月 1 日(月)～3 日(水)
場 所： 山形大学蔵王山寮(電話023-694-9669)
主 催： 山形大学教育方法等改善委員会
山形大学高等教育研究企画センター
共 催： 地域ネットワーク F D “樹氷”

第 5 回 教養教育 FD 合宿セミナーパンフレットの抜粋

F D 合宿セミナーに当たって

山形大学は 6 学部を擁する総合大学です。教養教育は、総合大学の特性を有効に活用するために全学出動体制を採っており、それは山形大学の大きな個性にもなっています。学部の垣根を越え、山形大学全体の教育を考える上で、教養教育は全ての教員の共通基盤となるものです。また、生き残りをかけた大学改革に際し、授業の充実が最も重要な課題の一つでしょう。

今回のセミナーの第一の目的は、「個々の教員が、山形大学を支えることの意義と位置付け、教育の基本的構成要素、各授業科目の存在意義、授業設計、成績評価法などについて、あたらめて主体的に検討し、再構築していただくこと」です。この目的を達成するために、まず、参加者の皆様に御担当いただく新しい授業科目について考えていただきます。そして、そのシラバスをグループで協力して作成していただきます。こうした一連の作業が有効な方法であることは、既に広く知られています。

セミナーは、本学への参画意識を高めるための 2 つのプログラムと、シラバスを作成するための 3 つのプログラムから構成されています。各プログラムは、グループ作業を中心に組まれており、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

また、「教養教育を素材として、学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が山形大学の教養教育を始めとした教育全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「山形大学の構成員こそが山形大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーは山形県の大学・短大の F D ネットワークである“樹氷”を始めとして、全国の大学に開かれています。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大の発展に寄与されることを願っております。



【第 1 チーム】

【第 2 チーム】



第 5 回 山形大学教養教育 F D 合宿セミナー日程表

期 間 第 1 チーム：8 月 1 日（月）～ 2 日（火）
 第 2 チーム：8 月 2 日（火）～ 3 日（水）

第 1 日目

時 刻	項 目	担 当
12:50	山形大学集合・受付（正門付近）	事 務
13:00	送迎バス 大学出発	
14:00	会場到着 セミナー開会 開会のあいさつ	司会：D R
14:30	アイスプレ - キング	L A 1
14:50	オリエンテーション	D R
15:00～16:30	プログラム 「大学へのニーズと課題」	D R
16:30～16:40	休憩（10分間）	
16:40～18:10	プログラム 「どのような大学にするか」	D R
18:10	休憩・夕食など	
19:30～21:00	プログラム 「科目設計 1：授業名と目標の設定」	L A 1
21:00～21:10	休憩（10分間）	
21:10～22:30	懇親会	L A 2
22:30	中締め	
23:00	就寝	

第 2 日目

時 刻	項 目	担 当
7:30～	朝食・部屋退出	
8:30～10:00	プログラム 「科目設計 2：授業内容の作成」	L A 2
10:00～10:10	休憩（10分間）	
10:10～11:40	プログラム 「科目設計 3：シラバスの完成」	L A 2
11:40～	修了式	D R
12:20～	昼食	
14:30	送迎バス 蔵王山寮出発	
16:00頃	大学到着 解散	

第 2 チームは 13:30 送迎バス 蔵王山寮出発、15:00 頃 大学到着 解散となります。

【留意事項】

セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。

セミナー期間中の個人の呼称は、「さん」とします。

食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。

1 日目の入浴時間は設けておりませんので、18:10～19:30 の時間帯で御利用ください。

起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。

退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。

第5回山形大学教養教育FD合宿セミナー 班名簿

第1チーム：8月1日～2日

学長	仙道 富士郎
Pro	鬼武 一夫
DR	小田 隆治
LA	今野 健一

プログラム

A班：やまゆり班		B班：とどまつ班		C班：ぱらだいす班		D班：祇園班		E班：だっきしょ班	
人	上野 芳昭	人	大河内 昌	人	合田 篤子	人	横山 敏	人	阿部 八郎
地	広田 信一	地	鈴木 漠	地	河合 康則	地	西脇 智哉	地	佐藤 慎也
工	高橋 辰宏	工	平野 悟	工	羽場 修	工	長谷川 政裕	工	多賀谷 英幸
工	大久保 重範	工	田村 安孝	岩	江本 理恵	工	小池 邦博	山	依田 平
農	上林 美保子	農	阿部 利徳	電	吉田 利信	静	佐藤 龍子	鹿	前田 博子
茨	千葉 康生	福	菅家 礼子						

プログラム

A班：おかま班		B班：しまづ班		C班：だるま班		D班：どまんなか班		E班：さんぼうこうじん班	
人	横山 敏	人	合田 篤子	人	阿部 八郎	人	上野 芳昭	人	大河内 昌
地	広田 信一	地	鈴木 漠	地	西脇 智哉	地	佐藤 慎也	地	河合 康則
工	多賀谷 英幸	工	大久保 重範	工	長谷川 政裕	工	平野 悟	工	高橋 辰宏
農	阿部 利徳	工	小池 邦博	工	田村 安孝	工	羽場 修	山	依田 平
岩	江本 理恵	鹿	前田 博子	農	上林 美保子	静	佐藤 龍子	福	菅家 礼子
		電	吉田 利信	茨	千葉 康生				

第2チーム：8月2日～3日

Pro	鬼武 一夫
DR	元木 幸一
LA1	中島 和夫
LA2	中村 三春

プログラム

A班：重文班		B班：びわこ班		C班：さくら班		D班：どっこいしょ班		E班：ゆうこ班	
人	安田 均	人	鈴木 明宏	人	藤田 稔	人	福山 泰男	人	金子 優子
地	長谷川 勉	地	渡辺 誠一	地	足立 幸子	地	鈴木 涉	地	伊藤 貢士
工	高野 勝美	工	佐藤 慎吾	工	川口 正剛	工	山下 清隆	工	小松原 秀範
工	羽鳥 晋由	工	村松 鋭一	工	小林 邦勝	農	佐藤 英世	農	高橋 教夫
電	吉田 利信	山	五十嵐 祐子	米	小池 隆太	羽	大木 みどり	米	加藤 守匡
		滋	兼重 努						

プログラム

A班：ゲーム班		B班：米沢牛班		C班：セントラル班		D班：どんと班		E班：ご班	
人	鈴木 明宏	人	安田 均	人	藤田 稔	人	福山 泰男	人	金子 優子
地	足立 幸子	地	鈴木 涉	地	渡辺 誠一	地	伊藤 貢士	地	長谷川 勉
工	山下 清隆	工	小松原 秀範	工	高野 勝美	工	川口 正剛	工	佐藤 慎吾
農	高橋 教夫	工	小林 邦勝	農	佐藤 英世	工	村松 鋭一	工	羽鳥 晋由
米	小池 隆太	米	加藤 守匡	山	五十嵐 祐子	羽	大木 みどり	電	吉田 利信
滋	兼重 努								

人：人文学部 地：地域教育文化学部 工：工学部 農：農学部 米：米沢女子短期大学 山：山形短期大学 羽：羽陽学園短期大学
 岩：岩手大学 福：福島大学 茨：茨城大学 静：静岡大学 滋：滋賀医科大学 鹿：鹿屋体育大学 電：電気通信大学

オリエンテーション

(担当：DR)

1 FDの必要性

大学の社会的教育責務の明確化
大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革
大学生の質の変化への対応

2 合宿セミナーの目的

教員個人が大学を支えること的位置付け
教育の基本的構成要素，大学における各科目の存在意義，授業設計，成績評価法などを
あらためて整理する。
教員相互の交流

3 セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する
学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

セミナーのグループ構成：5班

班の構成員の年齢は幅広くする。「プログラム・ 」と「プログラム・ ・ 」
で，班構成を替える。

各プログラムに，毎回，総合司会者と記録係を置く。(各班の持ち回り)

各班に，毎回，司会者と記録係，発表者を置く。(持ち回り)

全体と各班の記録係は，各プログラム終了後に記録を提出(この記録は，コピーした後，
速やかに全班に配布)

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で，各参加者が各班の発表と
質疑応答に対し，5段階で評価を与える。(この評価は，毎回回収し，整理した後，速や
かに掲示する。)

合宿セミナーに関するポストアンケートを実施

4 各プログラムの基本的形態

各プログラムの講師による作業内容の説明	10分
グループ作業	40分
発表 各グループ	20分
(各グループの発表時間4分×5班)	
全体討論	20分

全体で 90分



平成 17 年度 第 5 回山形大学教養教育 F D 合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」

セミナーの形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

班構成：5 班

班の構成員の年齢は幅広くする。班は、参加者を見て、当日までに委員会で決定しておく。

「プログラム 1」 と「プログラム 2」 で、班構成を入れ替える。

各セミナーに、毎回、司会者と記録係を置く。（各班の持ち回り）

各班に、毎回、司会者、記録係及び発表者を置く。（持ち回り）

各プログラムの基本的構成

各プログラムを担当する講師による作業内容の説明	10 分
班ごとの作業	40 分
発表 各班の発表時間 4 分 × 5 班	20 分
全体討論	20 分

全体と各班の記録係は、A 4 版 1 枚程度に記録をまとめ、各プログラム終了後に提出する。
（この記録は、コピーした後、速やかに参加者全員に配布）

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で、各参加者が各班の発表（各 4 分で計 20 分）と質疑応答に対して評価する。5 段階評価とし個人は 15 点の持ち点を有する。

（この評価は、毎回回収し、整理した後、速やかに全班に配布）

プログラム 1 「大学へのニーズと課題」

各班同じテーマ 次のプログラムも念頭に置く。

大学の分析

- ・大学の置かれている状況分析
- ・社会的ニーズ
- ・長所
- ・短所
- ・現実的な制約・問題点、改革の必要性など

プログラム 2 「どのような大学にするか」

プログラム 1 の問題点等を踏まえた上で、大学の教育機能を十分に発揮するためには、これからのどのようなことを考え、実行していかねばならないか、具体的に提案する。

大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標、大学の「個性」と「売り」をどうするか。すべての班が同じテーマであるが、個性あふれる現実的企画を期待する。

大学の「売り」を作る企画が求められる。

理念・目標

- ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
- ・個性的な大学像（理念・目標、キャッチフレーズ）

方略（考えられるいくつかの方法、実現の可能性）

実行計画（主な活動、資源、時期、担当、責任、具体的企画書等）

- ・その宣伝・普及の方法（3 年計画案）

評価（測定方法、学生、教員）

- ・目標が達成できたかどうかを検証する。

プログラム 「科目設計 1：授業名と目標の設定」

各授業に分かれ、以下の指定された授業において適当な科目を作り、その科目名（名は体を表す科目名）とその学習目標を明らかにする。履修の時期も明確にする。

- A 班：大学の個性を発揮する授業
- B 班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- C 班：国際性を培う授業
- D 班：21 世紀の諸課題に対応する授業
- E 班：職業意識と労働意欲を培う授業

プログラム 「科目設計 2：授業内容の作成」

学習方略

授業内容（順次性を踏まえて設計）

授業の方法（講義，ビデオ，見学，調査，討論，担当教員等）

ここでは、「科目設計 1」で作った科目の授業内容を設計する。原則として、週に 1 回 90 分授業を 15 回実施するとして、15 回分の授業内容（方略）を設計する。授業の順序と各回の内容、授業法、媒体、資源などを現実的に示す。方略を設計するに当たり、目標の修正が必要になるかもしれない。この場合は、目標を手直しする。

プログラム 「科目設計 3：シラバスの完成」

「科目設計 2」で設計した授業内容を手直しし、「評価」の項を加え、シラバスを完成させる。

成績評価

評価項目

評価方法

評価比重（%）

各グループの課題

プログラム

グループ	課 題
共 通	大学へのニーズと課題

プログラム

グループ	課 題
共 通	どのような大学にするか

プログラム ~

グループ	課 題
A 班	大学の個性を発揮する授業
B 班	地域性と関連する授業：大学と地域の連携
C 班	国際性を培う授業
D 班	21 世紀の諸課題に対応する授業
E 班	職業意識と労働意欲を培う授業

プログラム 「大学へのニーズと課題」

(担当：DR)

各班同じテーマ プログラム も念頭に置く。
現実的，具体的に解析する。

- 1 大学には何が求められているか？
 - ・社会は大学に何を求めているか？
 - ・学生のニーズ
- 2 大学の置かれている状況分析
 - ・そこには，どのような課題（問題）があるか？
 - ・長所
 - ・短所
 - ・その生じさせている理由・原因は何か？
- 3 現実的な制約・問題点，改革の必要性など

プログラム 「どのような大学にするか」

(担当：DR)

プログラムの問題点などを踏まえた上で，大学の教育機能を十分に発揮するには，これからどのようなことを考え，実行していかなければならないか，具体的に提案する。大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標，大学の「個性」と「売り」をどのようにするか。すべての班が同じテーマであるが，個性あふれる現実的企画を期待する。

大学の「売り」を作る企画が求められている。

- 1 大学の理念・目標
 - ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
 - ・個性的な大学像（理念・目標，キャッチフレーズ）
- 2 方略（考えられるいくつかの方法，実現の可能性）
- 3 実行計画（主な活動，資源，時期，担当，責任，具体的企画書など）
 - ・その宣伝・普及の方法（3年計画案）
 - ・組織論（学部，学生の入口と出口（入試制度と就職），学長と副学長制，委員会など）
- 4 評価（測定方法，学生，教員）
 - ・目標が達成できたかどうかを検証する

プログラム 「科目設計 1：授業名と目標の設定」

(担当：L A 1)

ここでの課題

シラバス作成作業の第 1 段階として、各グループごとの課題に対応した授業名と学習目標の設定を行う。

プログラム ~ の各グループの課題

- A 班：大学の個性を発揮する授業
- B 班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- C 班：国際性を培う授業
- D 班：21 世紀の諸課題に対応する授業
- E 班：職業意識と労働意欲を培う授業

作業 1 授業名の決定： (仮称) 内容確定後、最後に決定？

作業 2 学習目標の設定

1 踏まえておくべきことから：

- (1) 教員中心ではなく、学生による学習を中心に考える (教員の果たすべき役割の再検討)
- (2) 大学に対する社会的ニーズ
- (3) 大学の全体的な教育目標

註：(1)について

大学の役割	学習方法と教育方法のデザイナー
講義の提供	教員と学生を一つのチームと考える
学生から独立	すべての学生の能力と才能を引き出す
学力差を明確にする	
成功へ向けて	
伝授する資源の重視	学習と学生の成功の産物を重視
資源の量と質の重視	産物の量と質を重視
入学生の質の重視	卒業生の質を重視
カリキュラムの発展と拡大	学習技法の発展と拡大
大学の質・内容の質	学生の学習の質
使命	
知識の提供・伝授	学習を生み出し、知識の発見と形成へ
コース・プログラムの提供	強力な学習環境の提供
教育の質の改善	学習の質の改善
多様な学生への対応	多様な学生を卒業させる
教育	
教員中心・知識伝授	学生中心・知識発見
教育の質	学習の質、学習効果・効率
指導者としての教員	学生の才能・能力を引き出す助言者
個人的・受動的学習	共同的・行動的・能動的学習

2 学習目標の記述

各科目の学習目標を表現することの必要性とその表現方法を学ぶ。学習の効果は、教育の受け手（学習の主体）である学生の変容で評価されるべきである。そのために、授業の目標と到達目標を定める。

註：授業の目標を作成する際の注意点

原則

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 学習の結果、いかなることができるようになるかを明示する

記述内容

- (1) 知識・技能の学習がなぜ重要か。それによって学生の要求がどのように満たされるかを明示する。
- (2) 複雑・総括的な概念を持つ動詞を用いる。
知る，認識する，理解する，感ずる，判断する，評価する，考察する，位置付ける，実施する，適用する，示す，創造する，身に付ける，等々
単純な行動を示す動詞は用いない（述べる，列挙する，選ぶ，記載する等々）
- (3) 必要な目標分類（認知・態度・技能）を総括的に含める。

註：到達目標を作成する際の注意点

授業の目標を達成するためにどのようなことができるとよいか、具体的に明示する。

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 動詞を含むこと
- (3) 「理解する」のような概念的言葉ではなく、観察可能な行動を具体的に表す
- (4) 授業の目標と関連していること
- (5) 到達レベルを書く
- (6) 認知，態度，技能を分けて書く
知識（認知領域）：知識を得て理解し，一定の能力を獲得する
述べる，説明する，分類する，比較する，解釈する，推論する，一般化する，適用する，結論する，批判する，評価する，等々の動詞
技能（精神運動領域）：知識・能力を活かして意識的・具体的に行動する
感ずる，始める，模倣する，工夫する，行う，創造する，触れる，調べる，準備する，測定する，等々の動詞
態度・習慣（情意領域）：獲得した知識・能力を，情報として相互に提供・交換し合う
行う，コミュニケーションする，協調する，示す，表現する，系統立てる，参加する，応える，等々の動詞



プログラム 「科目設計 2：授業内容の作成」

(担当：L A 2)

ここでの課題

プログラム「科目設計 1」で作成した授業について、学習方法と道筋（戦略，学習方略）を明示する。具体的には，学習者が到達目標に達するために必要な学習方法の，種類と順序を示す。

作業

原則として，週に 1 回 90 分の授業を 15 回実施するものとして，授業の内容を考えてみる。その際，授業の順序と各回の内容，学習法，利用する媒体，資源などについて明示する。内容によっては，授業の目標，到達目標，さらには科目名についても変更が必要になるかもしれない。

註：学習方法の種類

- (1) 受動的学習法：講義など
- (2) 能動的学習法： グループ討議（演習，セミナー，ディベートなど）
実験・実習
自習（読書，個人研究，コンピュータ活用学習など）

註：学習のための資源

- (1) 人的な面で：
- (2) 物的な面で： 場所
媒体（スライド，OHP，標本，VTRなど）
- (3) 予算



プログラム 「科目設計 3 : シラバスの完成」

(担当 : L A 2)

ここでの課題

プログラム 「科目設計 2」 で作成した授業について、シラバスを完成する。

成績評価

その位置付け

- (1) 教育評価は、学生、教員、カリキュラム（目標、学習方法の立案（方略）、評価）の三者が対象
- (2) 成績評価は、その中の一つ。

留意点

- (1) どの行動領域を評価するか
知識（認知領域）
技能（精神運動領域）
態度・習慣（情意領域）
- (2) いつ評価するか
学習前（プレテスト）
学習中（中間テスト）
学習終了後（ポストテスト）
フォローアップ・テスト
- (3) 評価の目的
形成的評価：学生が理解している点、理解が不足している点を発見し、学習法、教授法へのフィードバックが目的。最終評価の参考にしない。
総合評価：到達目標に対する学生の到達度を計測する。
- (4) いかに評価するか、複数の評価項目のウェイト
論述試験
口頭試験
客観試験
実地試験
観察試験
論文（レポート）

評価の持つべき性格

- (1) 妥当性：計測しようと意図する項目を計測できる方法か？
- (2) 信頼性：計測結果の再現性は良いか？
- (3) 客観性：計測者（教員）が替わっても、同じ結果が得られるか？
- (4) 効率性：経済的にも時間的にも実用的か？
- (5) 特異性：なぜ、そういう解答がなされたか分かるか？

各プログラムの記録【第 1 チーム】

プログラム 「山形大学のニーズと課題」

グループ作業記録

やまゆり班

司会者 上野 芳昭
記録者 千葉 康生
発表者 高橋 辰宏

1 山形大学に何が求められているか？

切り口 1 企業 - 高度な専門性，即戦力
親・学生 - 就職先（親が安心するような）

切り口 2 文系 学 部 居場所探し
大学院 自分探し
理系 専門性が最初からある

2 山形大学の置かれている状況分析

長所：細かい指導，カウンセリング

短所：たこ足

2007年希望者 = 入学者

70～90% 県外からの学生 入学し，県外に就職

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

教育と研究 : バランス分離

とどまつ班

司会者 阿部 利徳
記録者 大河内 昌
発表者 鈴木 漠

1 山形大学に何が求められているか？

社会のニーズ

保護者

- 保護者が求めるもの - 就職のための技能，資格
- 企業が求めるもの - 技能，資格 + 教養

研究

地域のニーズに根ざした研究

- 地元企業ニーズに応える - 理科系
- 地域の（行政）課題に応える - 社会，人文系

- 学生のニーズ - 漠としている 知識とスキル
- 学生によっては明確でない

2 山形大学の置かれている状況分析

- 短所 学生が目標を見出しやすいオリエンテーション・カリキュラム設計（カウンセリングも含む）が必要

学生の多様化に十分に対応しきれていない

- 長所 地域貢献は順調に進展している

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性など

- 高校の進路指導 - 高大連携が必要か（入試制度）



ぱらだいす班

司会者 河合 康則
記録者 羽場 修
発表者 合田 篤子

1 山形大学に何が求められているか？

- ・社会は大学に何を求めているか？
専門教育を通した生きる力、考える力 →

基本的なこと
〔人と話ができる，文章がかける
あいさつができる
社会で自立できる力〕

- ・学生のニーズ
ニーズの多様性

高度の専門
⇕
すぐに役立つ知識
とりやすい単位

2 山形大学の置かれている状況分析

考える力をどうやってつけさせるか

- ・教員側の意識改革
- ・カリキュラム・指導方法の改革

知識を伝達する授業 \longleftrightarrow ? 考えさせる授業

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- ・教員の負担増
- ・教員の教育に対する意識の違い

教室は ?
研究者 教育者



祇 園 班

司会者 西脇 智哉
記録者 佐藤 龍子
発表者 横山 敏

1 山形大学に何が求められているか? 特に学生に焦点あてる

- 「社会」とは何か。 一番大きなところは企業
親, 企業, 地域etc かつて国立大は地域との接点少なかった
- 学生のニーズ (受験生, 学部生, 大学院生etc)
学部・学科・専門領域によってニーズ異なる。出口の保証
人文 - 就職試験すら受けない。来る学生が異なってきた

社会に出て使える学生・優秀な学生

↳ ・柔軟性 (社会にはいろんな人がいること)
色んな教員 色んな科目をとる 広い視野

・広い視野
・コミュニケーション力

2 山形大学の置かれている状況分析

- ・タコ足キャンパス
- ・進学率50%
- ・工学部は県内20% But地域教育はほとんど県内
(全国区)
- ・人文, 理も全国区型
学部により課題異なる
総合大学のメリット打ち出せているか

だっきしょ班

司会者 前田 博子
 記録者 佐藤 慎也
 発表者 阿部 八郎

- 入学時 卒業時 実際
 6 割 ・ 3 割 ・ 1 割強
- 前田) 国立で唯一の単科大学 150名 全国
 鹿屋体大 ・ 教員希望多い
- 依田) 資格をとりたいというニーズ
 山短大 [・ 幼児教育系 [・ 総合文化学科 事務職
 [・ 介護系 [・ 学費の問題 ・ どうしても就職したい
- 阿部) 山短大のニーズがはっきりしている
- 多賀谷) ・ 工学系は90%がメーカーを希望。今はメーカーが即戦力を求めている
 6割が大学院進学。転換希望の学生もいる。公務員・銀行等
 ・ 教育に重点, JABEEのシステムを取入れ, 教育評価システムを入れている
 ・ 技術士補, アメリカ教育の影響(ABETT), 日本はちがったものを
 みとめていこうとするシステムとして動いている
- 佐藤) 地域教育文化学部が県のニーズで生まれた状況
- 前田) フレキシブルに動ける, 大学づくり。 地域がpointであるから, 政治との関係も
 生まれてきている
- 阿部) 人文では, 公務員, 教員志向である。かつては就職をみていなかったが,
就職をするようになるに力を入れている。ただストレートでなれるようにはない
 環境にある
- 前田) 新卒で, 教員になれない。インターンのようなシステムに変わりつつある
- 阿部) 山形だと, 公務員希望が多くなる
- 前田) 若者の就職状況が変わってきている。採用側のシステムも問題
 短大: 幼児教育, 介護は位置づけられている
 自然科学, 工学系は6年教育というできあがった人材を必要としている
- 阿部) 大学院進学で, 公務員・教員志向の学生も増えている
- 前田) 学生のニーズと社会の受け入れ体勢にカイリが見られる
- 佐藤) 再教育のシステムをどう答えられるのか
 10年後, 団塊の世代の引退。ニートの再就職に向けて考えていく必要



全体会記録

総合司会 上野 芳昭
記録者 千葉 康生

「大学へのニーズと課題」

専門教育

Q．教員の意識改革をどのようにするか？

(ばらだいです班) A．専門知識の伝達に重点を置いている現在
（考える）力を養える授業へ
（使える）

Q．意識改革と言えるか？

A．このような提案はなかなか通らない
(FDに絡んで)実技等多面的な授業を
先生がおもしろいと思うことを授業で行うだけでなく、
コミュニケーションをとることが大学の中でうまく
いっているか疑問なので、考える授業を

- 意見
- ・初等教育，国語の問題かもしれない
 - ・企業の要求が，社会の要求全体とは限らない
 - ・企業が欲しいのは即戦力でなく（学部卒の場合）
柔軟性，若い感性が欲しい（今にない感性が欲しい）
（中途採用が多くなることもあり得る）
 - ・社会は大学出ただけの学生を求めている
企業
団塊世代が抜けた後の埋め合わせのできる再教育を



プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

グループ作業記録

やまゆり班

司会者 千葉 康生
記録者 上林美保子
発表者 広田 信一

- 1 山形大学の理念・目標 校風 不言実行！
 - ・弱点のない大学と耐性のある学生
 - ・何でも疑ってみよう
 - 自分の考えをまとめて相手を納得させる
- 2 地域分散型総合大学に向かう方略
 - ・日本語で論理的文章を書けるように
 - 国語力と耐性をつける教育を行う
- 3 実行計画
 - ・大学のシステムの透明性を高めるための委員会の簡素化
 - ・就職率を高める
- 4 評価
 - 企業へのアンケートを行う



とどまつ班

司会者 菅家 礼子
 記録者 平野 悟
 発表者 大河内 昌

1 大学の理念・目標

地域連携 = 地域に有利な人材を育てていく

- ・ 地域の課題に答えられる学生
- ・ 総合的な能力をもった学生

2 方略

一方でユニバーサルな研究・教育テーマをもつと同時に、
 地域のニーズに合うような研究・テーマを持つ

3 実行計画（3年計画）

- ・ 地域課題を公募
- ・ 学部間協同研究を学長裁量経費を使って立ち上げ
 拡張時に科研費など外部資金を導入
- ・ 社会貢献推進機構を設置・既存の組織にリーダーシップをとってもらう

4 評価

- ・ 山形大学の地域への貢献度を地域に

{	評価してもらう
{	判定してもらう
	テスト・アンケートなど
- ・ 指標 - 地域課題に答える組織を作ったかなど

ぱらだいす班

司会者 吉田 利信
 記録者 合田 篤子
 発表者 羽場 修

1 大学の理念・目標

生きる力にあふれた明るくたくましい
 問題解決能力ある学生の育成

2 方略

- ・ アドバイザー制度の導入・充実
- ・ 履修の複数チャンス化の導入

3 実行計画

カリキュラムの見直し

4 評価

- ・ 留年・退学者数の年度毎の比較
- ・ アンケート（大学システム・アドバイザー制度の効用）
- ・ 企業アンケート

祇 園 班

司会者 長谷川政裕
記録者 横山 敏
発表者 西脇 智哉

1 大学の理念・目標

「つくる力」...キャッチ・フレーズ
(創)

2 ストラテジー(方略)

文系: フィールドワーク

地域政策, 町づくりへの参加 - アクションリサーチ

工: つくったものの販売 インターンシップの活用

岡山大学では 授業・学生にカリキュラムをつくってもらう 教員が授業を行う
(シラバス)

山大でもやってみよう。

卒論不要 報告書をもってかえる

高知大学のインターンシップ

= 1年の時点でのインターンシップ

問題意識の形成

or

ギャップイヤー制度

3 実行計画

NPO等の活用

このプランの実行そのものが大学の宣伝となる

直接入口と出口の変革ではないが, 大きな変化をもたらす

4 評価

3 ~ 4年で追跡調査する



だっきしょ班

司会者 多賀谷英幸
記録者 前田 博子
発表者 依田 平

1 理念・目標

理念：地域貢献

目標：時代に併せ，地域性を前面に

18才年代だけを対象にしない 幅広いターゲット

2 方略

コンピュータ・ネットワークの利用

各学部，キャンパス，他大学が各々窓口になる

3 実行計画

各学部・キャンパス，他大学を結びつけるための

具体的な設備の整備計画

コンピュータ及び図書館

4 評価

量的：在籍学生数に加えて様々な対象者を受け入れる

プラスアルファの学生数

質的：学部のみを越えた幅広い分野を対象に，

様々な専門性に切り売りする

大前提として

社会の変化に併せた新たな役割を担う

ニート他様々な対象者の再教育機関を目指す

タコ足を弱点とせず，地域分散・サテライトと見て強味とする

全体会記録

総合司会 阿部 利徳
記録者 田村 安孝

「どのような大学にするか」

Q . ニートの教育にインターネットは有効か？（社会人再教育には一部有効）

A . e - ラーニングの課題である
分散していることは窓口がたくさんあるというメリットと考えた
欠点是对人関係だが，専門性と地域性を活かす手段になり得る

Q . （ とどまつ）地域への人材供給
他県からの入学者が多いことの問題は？

A . 地元へのアピールとしてかかっている
山形で通用すれば，他県に行っても通用する
「地域課題に対応する能力」を目指す
北大の例では，地元 roots しようとする学生は多い

方策について

Q . （ 祇園）留年が増えた場合，経済的な問題は？

A . 私大では「在籍料」だけにする例がある



プログラム 「科目設計 1: 授業名と目標の設定」

グループ作業記録

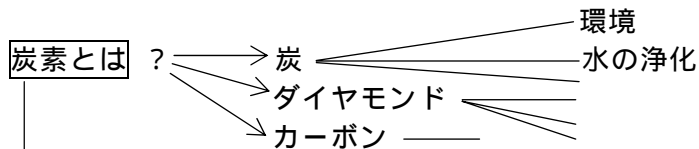
おかま班

司会者 阿部 利徳
記録者 広田 信一
発表者 多賀谷英幸

タコ足 総合大学の特徴を利用する

問題解決型の方法を用いて学習者自らが学習することができる能力を育成する

ex. 炭素といってもいくつかの様相



複数の方法で対象について調べることができる
人にわかる様に話すことができる
調べた内容をまとめあげることができる
内容をわかりやすく説明できる
学生が自発的に調べることができる

炭素の種類
" 措置
" 利用方法

しまづ班

司会者 鈴木 漠
記録者 小池 邦博
発表者 前田 博子

授業名の決定

「山形の地域性と家族形態」

学習目標

地域の課題を見出す！ <=> 地域との関連性

- ・調査 ~フィールド・ワーク~
- ・分析 ~グループディスカッション~
- ・報告 ~プレゼンテーション~

を通して、山形の将来展望についての考察

到達目標

(a) 知識を得る

~ 山形の課題について ~

(b) 技術を身につける

{ 調 査 }
{ 分 析 } 能力
{ 報 告 }

方法 ・プレゼンテーション

・提案内容 <=> 地域への フィードバック



だるま班

司会者 阿部 八郎
記録者 長谷川政裕
発表者 千葉 康生

(作業 1) 授業名：国際性を培う授業 (仮称)

(作業 2)

- ・国際性とは何か？
 - ・異文化を理解する (他国の理解)
 - ・自国 (日本) をもっと理解する
 - ・日本地域の文化を外国人に説明できる

- ・日本の文化の中味は？
 - 地域文化 (歴史・風習・風土) などを理解し，説明できる

授業の目標

- 1) 学生が日本の地域文化を調査し，理解すること
- 2) 理解した内容を日本をあまり知らない外国人に説明英語でできること

到達目標

- 1) 英語の資料が作れるかどうか？
- 2) 英語でのプレゼンテーションができるかどうか？
 - ・何故国際性が必要なのか？
 - 〔自国の文化を理解し他国の文化を理解する
外国人とコミュニケーションがとれるかどうか？〕

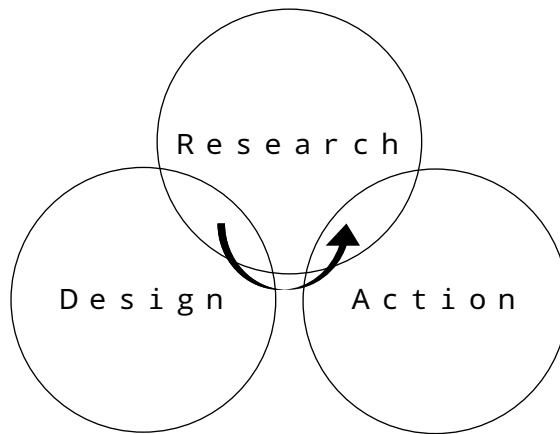
- ・プレゼンテーションのしかたの講義は？
- ・パワーポイントの使い方？

どまんなか班

司会者 佐藤 龍子
記録者 上野 芳昭
発表者 佐藤 慎也

「科目設計 授業名と目標の設定」
「21世紀の諸課題に対応する授業」

- (1) 「環境循環型社会を考える」(授業名)
- (2) 学習目標の設定：現在の身近な環境問題に気付く
- ・現在行われている方法の再検討 ex. ペットボトルの再利用
 - ・有機農業
- (3) 到達目標
- ・実践する方法を考案できるようにする
 - ・循環型社会のあり方を理解できるようになる
 - ・日常生活の環境問題に気付き，問題点を指摘できるようになる。
- 行動できるようになる。



さんぼうこうじん班

司会者 大河内 昌
記録者 高橋 辰宏
発表者 河合 康則

科目名：「人生と社会を考える」
見る・聞く・読む

目 標 人間力，耐力
考え方，情熱，能力

自分の大学，学科の内で
社会とのかかわりの中で
自分をみつける

プログラム 学ぶもの 社会での役割
人生を社会とのつながりで考えさせる
業界のリサーチ（資格，道のり）
調査 その分野で一流になるためのイメージを調べさせる

身につくもの 調査力
分析力
業界の具体的情報を得る



全体会記録

総合司会 横山 敏
記録者 江本 理恵

司：共通点があった

- ・ 問題解決型
- ・ 調べて まとめて 発表

Q：“炭素とは？” 理系 文系 逆はあるのか？

T Aで他学部の基礎実験をやったことがある。彼らに専門をきくと調べて教えてくれた例えば理系課題を文系の先生が教えることはあるのか？

A：総合大学 いろいろな専門の学生，教員がいるのを利用したいというのでアイデア

司：斬新な授業の提案に思えた

Q(司)：1年勉強しただけでここまでのFWができるのか

A：明日なやみます 目標のレベルかと

山形について考えてみよう 出てくるものについてはキタイしない

司：明日へのホップステップの自信が



学：環境循環型の科目，教養教育として考えた時，Actionをおこすというのはおもしろい
「私がやりたい」と言った時，具体的にできるだけ
の覚悟(?)はあるのか？
ブレインストーミングだけのレベルか？

A：学長さんがお考えなら，まわりの智恵を拝借しバックアップをうけてやりたい

学：小田さんはFDとしているがBSと違って考えると実際にやるのとはちがう
後者だと，かなりきっちり考えないといけないので。

1回目で「やらないか？」と声をかけてもやってもらえなかった

何回目にかは，実際の授業として開講したものもある。そう，具体化につなげたい。

司：学生主体の授業をくみたててる。

印象だけど高校までの授業を否定する(目からウロコ)もの，課題解決型と両方がいるのかも。そのかねあわせがむずかしい

Q：国際性 日本のことを英語で発表

英語の先生とのタイアップ

10分発表させるのもたいへん

ただし力をつく

やってみたらどうか？

Q：国際性とは

小田さん：国際化というのが問われているが，英語がどうとは決めてない

プログラム 「科目設計 2 : 授業内容の作成」

グループ作業記録

おかま班

司会者 広田 信一
記録者 多賀谷英幸
発表者 江本 理恵

- 1 前回の検討内容を引き継ぐ
山形大学の個性：総合大学...理系と文系
「炭素とは？」を共通テーマとする 他のテーマや文系のテーマも考える
学習目標：5 項目

- 2 学習法 最初のオリエンテーションで十分な情報提供（導入）を行う

- ・グループで課題を選択する
- ・それぞれインターネット等で検索する
- ・検索した結果について教員と内容の確認を行いながら
グループ全員の理解を深める
- ・具体的な項目の設定
活性炭，ダイヤモンド，カーボンナノチューブ，構造，...
応用：排水浄化
実験：簡単な実験
- ・多様な先生方の協力を得る：アドバイス，コメントを得る
- ・アドバイスを基に検討を深める
- ・最終発表を行う

5 回程度
簡単な発表
講演会

- 3 学習のための資源

- ・人的：T A の利用 T A の能力の十分な向上
多様な学部の先生方
- ・物質：多様な学部想定
発表方法：パワーポイントなど



しまづ班

司会者 小池 邦博
記録者 前田 博子
発表者 吉田 利信

1 年生の先行履修科目～どれか 1 つを取る / 各科目は本科目を見すえて
共通の内容を盛り込む

- 日本農業は生き残れるか
- 家族と地域社会
- 食糧農業
- ジェンダーと労働
- 労働者と農民

3 分野

- 家族社会
- 農業
- 労働

1. ガイダンス

2.

3. 家族社会

4.

5.

6. 農 業

7.

8.

9. 労 働

10.

11. フィールドワーク

12. 3 つから 1 つを選んでグループワークとする

13. グループ検討会

14. プレゼンテーション

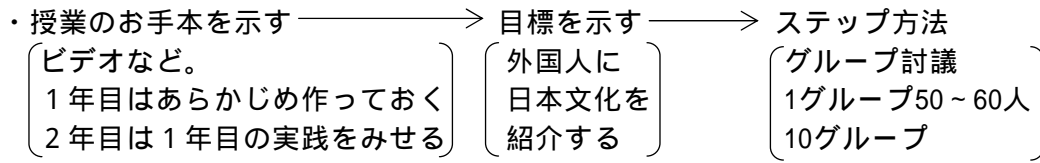
15. 討 議

- 講 義
- 〃
- グループ作業
- 講 義
- 〃
- グループ作業
- 講 義
- 〃
- グループ作業

だるま班

司会者 上林美保子
記録者 阿部 八郎
発表者 長谷川政裕

授業の流れ



学生による授業・グループ討議

- 1回目はビデオなどのマネでよい
- 2回目は独自のものが作れるように

グループ分け 1クラス50～60人
5,6人×10グループ

テーマの提示 資料作り

情報源 - 画像等 インターネット, ホームページ 著作権の問題
--

グループ討議

- ・目標に従い各自発表するテーマを考えてくる(衣・食・住)
- ・プレゼンテーション
- { 中間プレゼンテーション
- { 最終プレゼンテーション

ティーチング・アシスタント3名(コンピュータ, パソコン, 英語に詳しい)
パワーポイント付パソコン必要 10台

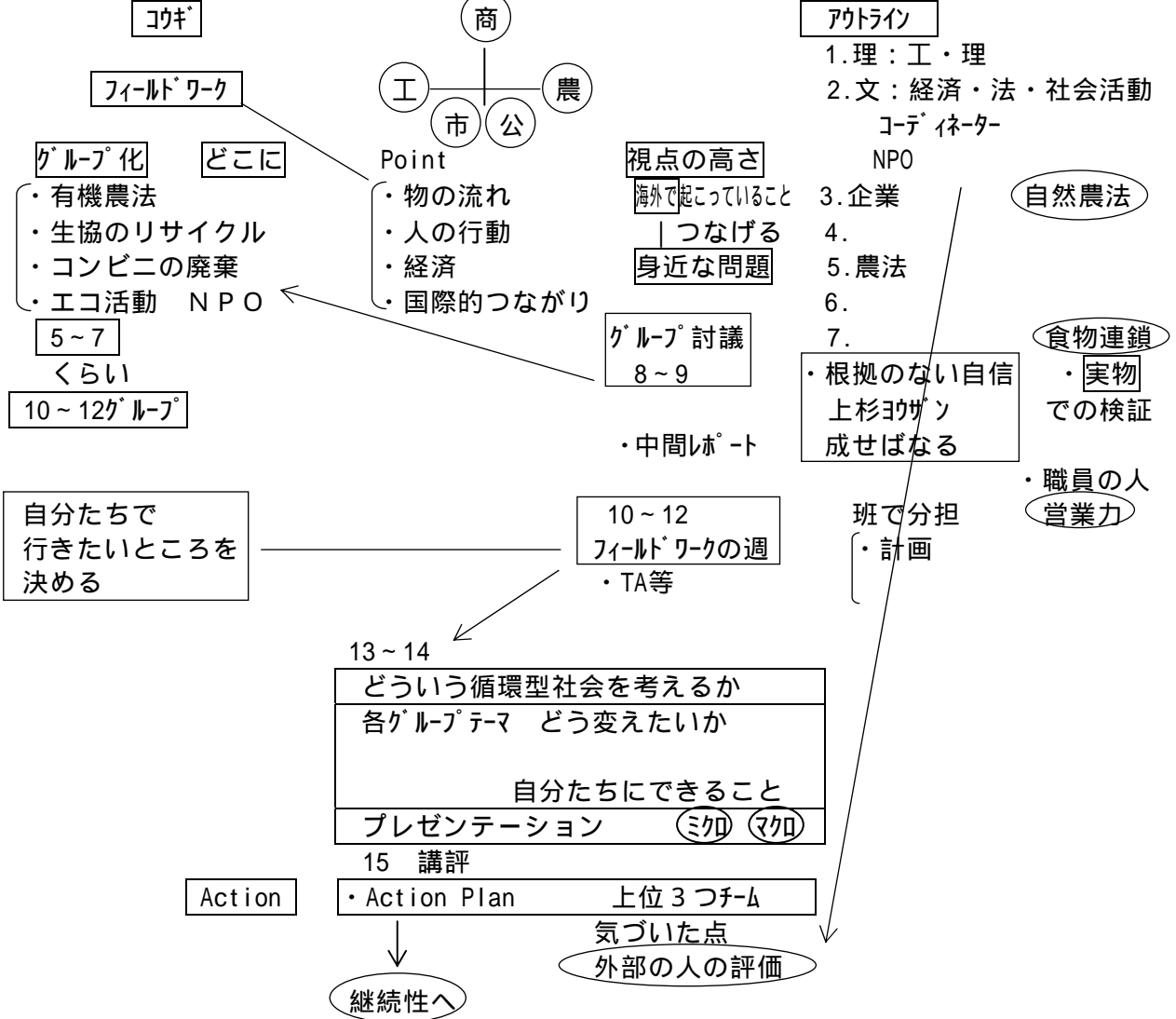
評価 留学生 5～6人にも参加してもらう



どまんなか班

司会者 上野 芳昭
 記録者 佐藤 慎也
 発表者 佐藤 龍子

1 年前期



さんぼうこうじん班

司会者 高橋 辰宏
 記録者 河合 康則
 発表者 菅家 礼子

《考え方》 クラス規模 150名（仮定）『人生と社会』
 内容に応じて、大人数150人
 ↓
 少人数30人×5クラス

⊙ T 5名
 ⊙ TA 5名

学生の参加を大切に
 リサーチ

- 1 回 イントロ（オリエンテーション）
- 2～4 回 1回目発表（個人の発表，当面の希望）1回10人
- 5～9 回 ゲストスピーカー，OB・OG，地元，業種，世代を考慮する
- 10～14 回 2回目発表6人×5 1人10分+ コメント助言
- 15 回 まとめ

↑ ⊙ T
 ⊙ TA
 ↓ 支援

《ゲストの話をどう生かすか》
 調べるポイント，視点 論点 気づかせる + 示す → （例：キャリアパス，夢，やりがい
 社会貢献，自分の弱点，得意な点）

今，自分が学んでいることとの関連を含む

自分をみつめ直すことにつながる

- ・必読書の設定 1冊
- 《発表レポート》
 - ・読んだ本を含めて
 - ・延長上にある将来の人生設計に役立つ 4年間の大学生活設計
 最後に報告書を作成し，提出する

全体会記録

総合司会 鈴木 漠
記録者 大久保重範

「授業内容の作成」

司 5 つの発表に対して質問ありませんか

Q . 150人クラスは大変ではないか , 授業のcost performanceについてはどう思うか

司 授業形態と経済効率について意見ありませんか

A . 経済効率は特に考えていなかった (さんぼうこうじん班)

A . 私大では退学者を除くために学生に接する機会を多くしている

意 私大 , 立命館大 , 同志社大学では職員がコーディネートして営業を行っている。
お金を集めている。

司 大学コンソーシアム京都是大学の職員が経営している。

Q . どまんなかに対して , フィールドワークは具体的にどんな内容か

A . 生協のごみの処理はどのようになっているかとか , エコ活動や計画です

Q . presentationの場合よく聞かせることができるか

A . グループ分けに工夫が必要であると考えられる

司 どうもありがとうございました



プログラム 「科目設計3：シラバスの完成」

グループ作業記録

おかま班

授業科目名 『炭素とは？』 担当教員： 名 担当教員の所属： 開講学年： 開講学期： 単位数： 開講形態： 開講対象： 科目区分：
【授業概要】 ・ねらい 問題解決型の方法を用いて学習者自らが学習することができる能力を育成する ・キーワード 炭素，問題解決型学習
【授業計画】 ・授業の方法 グループで課題を調べ（インターネット活用）教員によるアドバイス・コメントを得て中間発表を経てさらに課題につき専門の教員のアドバイスを得て最終発表を行う。 ・日 程 1. オリエンテーション 2～6. グループ学習 7～8. 中間発表 9～10. 専門の教員にコメントをもらう 情報の共有 11～15. 再グループ学習 最終発表
【学習の方法】 ・受講のあり方 ・予習のあり方 ・復習のあり方
【成績評価の方法】 ・成績評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ単位 グループ発表と質疑 応答 ・最終レポート（個人） 自分のグループ活動の発表の内容と自己評価 他班の発表内容と自己評価 自分が全体を通して学んだこと
【テキスト】
【参考書】
【科目の位置付け】
【その他】 ・学生へのメッセージ ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野

しまづ班

授業科目名 山形の地域性と家族形態 担当教員： 人文学部，農学部 3名 担当教員の所属： 開講学年： 2年 開講学期： 前期 単位数： 2単位 開講形態： 講義・演習 開講対象： 全学部 科目区分： 選択	
【授業概要】 ・テーマ 大家族形態，核家族形態の比較検討，及び社会的，法学的側面の分析と改善 ・ねらい 大家族形態の多い山形地区における社会的，法学的特徴を把握し，地域社会，家族社会の発展を考察する。 ・目標 家族制度の調査を通し特徴の把握とpresentation能力を修得する。将来予測。 ・キーワード 大家族制度，核家族，地域，社会的側面，農業経済	
【授業計画】 ・授業の方法 オムニバス方式講義，3分野，フィールド調査の指導，presentationの方法と実施 ・日程 1．全体ガイダンス 2～4．家族制度 5～6．農業経済 11～13．フィールドワーク 14～16．プレゼンテーション	
【学習の方法】 ・受講のあり方 出席をとって，小テスト方式，フィールドワーク，活動状況の提出 ・予習のあり方 文献調査，webでの情報収集 ・復習のあり方 調査内容の検討，課題をこなす	
【成績評価の方法】 ・成績評価基準 総合で60点以上が合格 ・方法 $\text{小テストの平均} \times 10\% + (\text{発表能力} + \text{レポート平均}) \times 90\%$ 60	
【テキスト】 各教員の配付資料	
【参考書】 web及び社会学，法学的参考書	
【科目の位置付け】 教養教育のための総合科目	
【その他】 ・学生へのメッセージ 1年次に先行履修しておく ・履修に当たっての留意点 実施制度に興味をもつ ・オフィス・アワー E-mailで予約 ・担当教員の専門分野 民法，農業経済，社会学の3名	

だるま班

授業科目名 国際性を培う (Interpretation of Japan) 担当教員： 担当教員の所属： 開講学年： 1 年 開講学期： 後 期 単位数： 2 単位 開講形態： 演 習 開講対象： 全学部 科目区分：
【授業概要】 ・テーマ 国際性を培う ・ねらい 異文化を理解する (他国の理解) 自国 (日本) をもっと理解する 日本の地域文化を外国人に説明できるようになる ・目 標 日本の地域文化を外国人に説明できること ・キーワード 国際性, 日本文化, 英語, プレゼンテーション
【授業計画】 ・授業の方法 講義... 2 回 グループ討議 プレゼンテーション ・日 程 1 . オリエンテーション 2 . プレゼン手法 (講義) 3 ~ 5 . グループ討議 6 ~ 7 . 中間プレゼンテーション 8 ~ 13 . グループ討議 (講義録提出) 14 , 15 . 最終プレゼンテーション
【学習の方法】 ・受講のあり方 ・予習のあり方 ・復習のあり方
【成績評価の方法】 ・成績評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 1) グループ討議での議事録 (司会, 記録者を決める) 2) プレゼンでの内容・態度 <ul style="list-style-type: none"> 知 識 - グループ討議 技 能 - プレゼン (最終) 態度・習慣 - プレゼン・グループ討議 < 中間プレゼン, 最終プレゼンの評価 > 3) グループ毎の評価 (個人評価もグループ討議の議事録で評価は可能?) 4) 中間プレゼンは形式的な評価 (フィードバック) 5) 学生自身による評価 (グループ毎) (自分のグループは評価しない) 6) 評価のウェイト <ul style="list-style-type: none"> グループ討議議事録 (教員のみ) 60点 最終プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・外国人による評価 30点 ・学生相互の評価 10点 国際性を培う (Interpretation of Japan) (留学生グループの発表は?) 中間に入れる?
【テキスト】
【参考書】
【科目の位置付け】
【その他】 ・学生へのメッセージ ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野

どまんなか班

授業科目名 環境循環型社会を考える 担当教員： 担当教員の所属： 開講学年： 1 年 開講学期： 前 期 単位数： 2 単 位 開講形態： 選 択 開講対象： 科目区分：																																																					
【授業概要】 ・テーマ 21世紀の課題の1つである環境問題を考える。具体的には、世界的視野に基づいて、身近な循環型社会を考える。 ・ねらい 講義・グループディスカッション・フィールドワークを通して、身近な循環型社会について考える能力を身につける。さらに、自ら行動する指針を身につける。 ・目 標 ・現在の身近な環境問題に気付く。 ・問題点を指摘し、行動できるようになる。 ・キーワード																																																					
【授業計画】 ・授業の方法 ex. 土 ・ 農 ・ 工 ・ 商 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>政策</td> <td>有機農法</td> <td>企業</td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td></td> <td>市民</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>NPO</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>生協</td> </tr> </table> 対象 1年生 クラスサイズ 70～80人 ・日 程 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>1.</td> <td>概論（理系・文系）</td> <td>8.</td> <td>グループ討論</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>農業・理・経済・法的課題</td> <td>9.</td> <td>文献・資料</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>企業</td> <td colspan="2">5～7人 / 10～12グループ</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>行政</td> <td colspan="2">身近な視点+世界的視点</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>市民・NPO・生協</td> <td colspan="2">中間レポート提出、今後の計画</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>農業</td> <td>10～12.</td> <td>フィールドワークウィークス TAの活用</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td></td> <td>13.</td> <td>プレゼン アクションプランの作成</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>14.</td> <td>学生による評価・投票</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15.</td> <td>講評 上位3グループ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>最終レポート</td> </tr> </table>		政策	有機農法	企業	行政		市民			NPO			生協	1.	概論（理系・文系）	8.	グループ討論	2.	農業・理・経済・法的課題	9.	文献・資料	3.	企業	5～7人 / 10～12グループ		4.	行政	身近な視点+世界的視点		5.	市民・NPO・生協	中間レポート提出、今後の計画		6.	農業	10～12.	フィールドワークウィークス TAの活用	7.		13.	プレゼン アクションプランの作成			14.	学生による評価・投票			15.	講評 上位3グループ				最終レポート
政策	有機農法	企業																																																			
行政		市民																																																			
		NPO																																																			
		生協																																																			
1.	概論（理系・文系）	8.	グループ討論																																																		
2.	農業・理・経済・法的課題	9.	文献・資料																																																		
3.	企業	5～7人 / 10～12グループ																																																			
4.	行政	身近な視点+世界的視点																																																			
5.	市民・NPO・生協	中間レポート提出、今後の計画																																																			
6.	農業	10～12.	フィールドワークウィークス TAの活用																																																		
7.		13.	プレゼン アクションプランの作成																																																		
		14.	学生による評価・投票																																																		
		15.	講評 上位3グループ																																																		
			最終レポート																																																		
【学習の方法】 ・受講のあり方 自主的に調べていってほしい。																																																					
【成績評価の方法】 ・成績評価基準 評価する行動領域 知識～講義，自主的調査 技能～コミュニケーション能力，調査の方法 態度，習慣～グループ内ディスカッション，学外の方とのコミュニケーション，生活習慣の改善 評価の時期 学習中～講義の感想文 20% 中間レポート 30% 学習終了後～プレゼンテーション 25% 最終レポート 25% 態度の評価？ 伺った先にアンケートのような形式で評価してもらう																																																					
【テキスト】																																																					
【参考書】																																																					
【科目の位置付け参考書】																																																					
【その他】 ・学生へのメッセージ ・履修に当たったの留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野																																																					

さんぼうこうじん班

授業科目名 人生と社会を考える 担当教員： 担当教員の所属： 開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 単位 開講形態： 開講対象： 科目区分：	
【授業概要】 ・テーマ 職業意識と労働意欲を培う ・ねらい 社会とのかかわりの中で自分を見つめる ・目標 希望する職業の調査分析を通して、自己認識を深め、大学で学ぶ意味を再発見する 調査・分析結果の発表を通して、プレゼンテーション能力を養う ・キーワード 職業、労働、自己発見、社会とのつながり	
【授業計画】 ・授業の方法 講義×7、発表×8 調査は授業時間外、必修 クラス規模 150名(仮定) T5名 TA5名 内容に応じて 大人数 150名 少人数 30名×5クラス 授業の順序 各回の内容 学生参加を大切に リサーチ、発表 ・日程 1. イントロ(オリエンテーション他) 2~4. 1回目発表 当面の希望 1回10人 5~9. ゲストスピーカーによる ・OB・OG ・地元 ・世代(比較的若い) } リサーチ T TA 10~14. 2回目発表 1人10分 大学4年間の設計も含む 15. まとめ 必読書の指定 内容を自己のリサーチ、発表 人生設計に役立てる(参考) 最終報告書の提出 夢, やりがい, キャリアパス 自分の弱点, 得意な点 気づかせる! 大学で学ぶこととの関連 コメント 助言 視点, 観点と照らし合わせて	
【学習の方法】 ・受講のあり方 発表者：夢、キャリアパス、希望する職種と大学で学ぶ内容との関連性を盛り込んだ 発表にできるよう、調査・分析をする 聞き手：他者の発表を評価し、質問する態度でのぞむこと ・予習のあり方 発表に向けて、しっかりリサーチすること ・復習のあり方 発表において、足りなかった点、指摘された点を調べる	
【成績評価の方法】 ・成績評価基準 発表40(教員30、学生からの評価10) レポート40 ゲストスピーカー、他者の発表への質問+他者の発表への評価20 発表評価シート ・良かった点 ・悪かった点(疑問点) ・評価	
【テキスト】 1冊必読書	
【参考書】	
【科目の位置付け】 必修科目	
【その他】 ・学生へのメッセージ TA ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野	

全体会記録

総合司会 西脇 智哉
記録者 上林美保子

どまんなか班

Q：評価を感想文としたのはどんな意義があるか？

A：感想文でも参考にしたい
感想文は1～7回の講義に対するもので形成的評価である

Q：態度はどう評価するのか

A：出先からアンケートなどで評価してもらう

だるま班

Q：インターネットなどでの相手国との関係は考えているか

A：PCで作っておくのでホームページなどに使えるが、著作権の問題も出てくる

しまづ班

Q：家族からの発展のテーマが大きすぎないか？
また、プレゼンテーションの技術まで大変ではないか

A：大変だが2年目なので自分でやるようにする
9グループにわけて、小さいテーマもきめて導いていく
TAをつけることも考える

Q：就職が決められない学生に職業観を持たせる教育とは

A：いろいろなきっかけと刺激を与えることが必要
例として建築の分野で「いそろう」問題を考えさせることで、家族を考える
きっかけにしているのがある

Q：質問を評価対象とするのは難しくないか？

A：数と質とを評価していきたい

A：アメリカの学生は必死に良い質問を考える
こういう土壌を作る必要がある

A：導入教育，初年次教育と一緒に職業教育をやっていく必要がある

各プログラムの記録【第 2 チーム】

プログラム 「山形大学のニーズと課題」

グループ作業記録

重 文 班

司会者 高野 勝美
記録者 安田 均
発表者 長谷川 勉

1 山形大学には何が求められているか？

- ・ 社 会
 - i 人材育成
 - 創造的 = 主体的
 - 即 成 力 = 実 践 力
 - ii 出前大学 公開講座，高大連携，村山キャンパス
 - iii 企業との連携
- ・ 学 生
 - 基礎を学ぶ
 - 知的好奇心
 - 人的交流
 - 就職・資格

2 山形大学の置かれている状況分析

07 年全入時代の到来
目標意識も薄く入学して来る大学

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性

全入時代の学生のポテンシャルを高めること 少人数教育
独法化後，中期目標に絞られ教育は乏しい



びわこ班

司会者 渡辺 誠一
記録者 五十嵐祐子
発表者 鈴木 明宏

1 山形大学には何が求められているか？

- ・地域の活性化に資する人材，優秀な人材養成
地域企業との連携，グローバルローカル
大学が考える人材と，企業側が求める人材とのズレ
- ・学生のニーズ
“大卒”という学歴，資格・免許，就職指導（進路指導）
大学への過剰な期待…人格育成，倫理
学生のニーズ イコール 保護者のニーズ

2 山形大学の置かれている状況分析

- ・長所：総合大学は転学できるのがメリット
学部を越えた授業や研究の交流（教員・学生とも）
視野が広がる
- ・短所：専門化による，カリキュラムの柔軟性のなさ，閉塞感
背景には職業の高度化がある

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性

- ・山大：タコ足キャンパス
- ・独立行政法人化により新しい仕事が多く入り，事務的作業の負担が増えた
- ・教養教育のあり方の改善…専門教育との関連性
カリキュラムの検討 教養教育の責任部局の設置



さくら班

司会者 藤田 稔
 記録者 足立 幸子
 発表者 小池 隆太

1 山形大学には何が求められているか？

- ・ JABEEでは何を教えたかではなく何ができるようになったかが大切（小林）
 ↑ 社会 処理能力 社会でやっていけるようになる
 - ・ アウトプットした学生が社会でどのように技術者としてやっていけるのか
 社会での還元（川口）
 社会のニーズ（JABEE）と学生のニーズ 一致するのだろうか
 学生は自由な時間をすごしたい
 社会では学生が実践的な力をつけていないとだめと考えている（小池）
 - ・ 企業の人事 即戦力が最初がいいが、後々大学卒がのびてくる。考え方を身につけている
 実践的 - 学部卒でできることはかぎられている - 企業で身につけている
 一般論としては教養
 - ・ 学生が育つだけでなく大人，社会人に役立つ
 生涯学習に教育を提供する
- 学生の多面化
 ↳ ターゲット 少子化もあり18歳人口だけでなく

2 山形大学の置かれている状況分析

- ・ 高等
- ・ 少子化 レベルダウン
 定員 スリム化する必要ないのか

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性

具其他的な対策は？
 子ども大学，地域の母と子 大学開放，教員が持っているものを社会に提供する
 地域に密着している
 技術者の再教育 社会人として入学 1割以下 学位博士 社会人ドクターは多い
 留学生 ”

分野によるのではないか？
 山形大学がおかれている状況は厳しい
 地域ハンデ，冬は雪，地理的規制，分散キャンパス
 独法化になって，金銭的にも厳しい。プレッシャーのかかる時代

当面は学生中心，その後親なども含めた教育に ←→ 学生の方だけ向いているわけには
 力を入れなければならなくなった いかなくなった

人文は全体のチームワークが問題，役割分担
 研究・教育・地域貢献の割合を教員が決められる
 評価はどうするのか ”

- ・ リサーチプロフェッサー
 800万出して役職をしない
- ・ 役職，授業，論文，ポイント制
- ・ 工学部では学生による授業
 評価を公開している
 そういうものも

JABEEをやったよかった点 カリキュラムがきちっと組み立てられていて，
 手をぬけなくなった

どっこいしょ班

司会者 鈴木 渉
記録者 大木みどり
発表者 山下 清隆

1 山形大学には何が求められているか？

- (社会) ・ 大学を卒業するということが社会が認めるステータスとしてある
 - ・ 企業にとっては即戦力
 - ・ 専門家集団としての存在 ・ 教育者としての存在
 - ・ 大学へ行かなかった人たちのために何かしてくれるところである
- (学生) ・ 学生が気づいていないニーズを気付かせてやる
 - ・ 就職に結びつく資格の取得

2 山形大学の置かれている状況分析

- ・ 学生に対する教員の数が少ない (個々の学生に対するきめ細かな対応ができない)
- ・ 予算が少ない
- ・ 大学の情報量が少ない。広く情報を伝えることが必要
- ・ 国立，私立等大学間の差

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性

- ・ 大学の教育力が問われている (大学の小中高化)

研究力，教育力の向上

- ・ 教養教育の必要性と重要性

ゆうこ班

司会者 伊藤 貢士
記録者 金子 優子
発表者 高橋 教夫

1 山形大学に何が求められているか？

- 地域において高等教育のチャンスを提供する
- 時代のトレンドを適切にとらえる **創設**
- 5年後10年後に役立つことをやる

2 山形大学の置かれている状況分析

- 研究に費やす時間余裕がない。雑用が多い
- 個人の知的好奇心を追求できる
- 地域性のメリットあり：健康の面から
代替医療 (アロマ，温泉，森林浴)
- スローライフ / ヒューマン・ネットワーク

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- お金がかからないものはできる。交通費のみ

結論

- 大学がどうやって社会と学生のニーズを先どりして，時代のトレンドを創出できるのかが課題
- ヒューマン・ネットワークが確立されていない

全体会記録

総合司会 吉田 利信
記録者 羽鳥 晋由

質) 重文班について

ポテンシャルの人材とは？
即戦力と矛盾するのでは

答)

How toではなくて いろいろな状況に
対応していける
基礎力と 応用力 高い

ゆうこ班について

トレンドと地域創成の関係

大都会とは違う地域の良さ
(年令に関係なく)

ヒューマン・ネットワークとは？
大学における意味

大学...若者が集まる場
地域を活性化

びわ湖班について

タコ足キャンパスは
利点ではないか
その長所は、
県内に拠点が多いこと
地域とのつながりが密

1年で教養終了
人格形成は無理
それが短所
教養と専門(教育)を共に
関わりをもつように

少子化(同時に) レベル低下させられない
多様化...有効に

(その他)

- ・大学があること自体，地域に大きな影響力
- ・人をどういうふう育てるのか？
- ・どっこいしょ班...学生のニーズはあいまい

この点が重要
議論をもっと！



プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

グループ作業記録

重 文 班

司会者 安田 均
記録者 長谷川 勉
発表者 吉田 利信

1 山形大学の理念・目標

キャッチフレーズ

人文の地域密着，連携

町づくり研究所

地域の特殊性

例

- ・蔵
- ・歴史 - 館
- ・気候の特性 - 雪

リベラルアーツのポテンシャルを高める

しっかりした専門性を養う

面倒見のよい大学 = 塾

懇切丁寧 = 教育法（方法，FD）

= アドバイザー，TA 活用

= 少人数

・資格，就職実績，

期末の学生の自己評価，卒業研究

びわこ班

司会者 佐藤 慎吾
記録者 五十嵐祐子
発表者 村松 鋭一

1 山形大学の理念・目標

人づくり，大学人としての人格形成
“人づくり大学”

2 方略

- ・教養教育の充実
- ・キャリア教育の充実

3 実行計画

- ・単位互換の拡充...地域ネットワークFDの活用
カリキュラムを柔軟にする，e-ラーニングの普及
- ・入口：入試で面接枠，試験枠を設ける，複数会場での入試実施
高校訪問をし，高校側に直接アピール
- ・出口：就職指導，インターンシップの拡充
- ・教員との対話，カウンセラーの設置
- ・評価制度の検討

4 評価

企業からのフィードバック（アンケート），就職率の数値目標

さくら班

司会者 小林 邦勝
記録者 藤田 稔
発表者 川口 正剛

1 目標・理念

既にある学生の特色に根ざすか、良い点をいかに引き出すかの点から考える
長期的な課題を自ら学生に自覚させてそれをサポートする大学

学生の多面化に対応
キャッチフレーズ 自分をプロデュースする大学

2 方略

- ・学生に課題を見つけさせる為に、まずレポートを書かせる
図書館の利用方法を教える。カリキュラムアドバイザーをおく。
- ・まず基礎的学力を養成する必要がある。その面では、自由度は少ない。
まず基礎学力を身につけないと自分の課題も発見できない。

3 実行計画

- ・3年よりもっと長期間が必要か
- ・カリキュラムアドバイザーを??早くから計画を立てさせ、修正させていく
- ・就職率を上げる - それには、卒業生との連携を強める必要がある
- ・満足のできる就職先、離職率の問題についても、
自らの課題を自覚できた者は、職に安定的についている
- ・入試 - 労力のかかる作業であり、全学的体制の再構築が必要か
ただし、1年次での意識づけ
- ・AO入試は課題への自覚はないが、基礎学力を上げるためには、
大学側がインセンティブを与える必要がある

4 評価

卒業生の実績
学生の満足度、自己評価



どっこいしょ班

司会者 鈴木 渉
記録者 福山 泰男
発表者 佐藤 英世

エリアを想定した大学の理念を前提に議論
(地域)
山形を一つの例に

1 目標・理念

大学の個性 = 学生の個性 人を育てる大学
地域重視・地域に利益還元
世界（山形から直接世界へ）

2 方略 3 実行計画

- ・ 指定校（山形県内の高校に特別枠をもうける）
授業料を県内の方は半額にする
小中高大とたてに，山形において，人材育成をリンクさせる
県立高校の附属校化
- ・ 父兄（30以上の社会人・主婦）は無試験入学させる 通学可能なエリアの人を重視
- ・ 入試制度：東京等，他地域でも実施
- ・ 卒業生のリカレント教育
- ・ 文理融合型の授業
- ・ 卒業生で活躍している人を招聘（講師）
- ・ 授業料の差異化（県内，社会人，主婦優先）

4 評価

- ・ 卒業生の就職先，会社からの評価
- ・ 受験者数

山形大学でもち上げる
話をしてもらう
そういう学生をふやす（いかに活躍しているか）



ゆうこ班

司会者 伊藤 貢士
記録者 金子 優子
発表者 加藤 守匡

1 理念・目標

開かれたネットワーク・キャンパス
将来の日本人の生き方のトレンドを形成するという位置付け

2 方略

ネットワークの形成を行う FD合宿もその1方法

3 計画

地域ごとにシンポジウムを開催し、発信していく
それを通じて学生を教育していく
地域で活動している主体を幅広くまきこむ
山形という地域に限定しない。広く世界を視野に入れる
地域枠：特定地域出身学生を優先させる
地域ネットワークの中で学生を教育する

4 評価

新しい価値を創出している主体で、学生がどのように活動するようになったのが
評価の基準

そこへの就職もある。在学中も。



全体会記録

総合司会 渡辺 誠一
記録者 兼重 努

(質) どっこいしょ班に対して
山形県民優遇入試問題あるのでは？
他県出身者もとるべき

(答) お金の問題を度外視した
自由な発想を述べた。県内出身者の
授業料だけを安くすることで、他県
出身者が不利になるというわけではない

(意見) どっこいしょ班に対して
県立高校の附属化に関して、県内に
中高一貫教育の学校をつくることが
重要である。そうすれば高校との連
携がより実りのあるものとなる

(答) 中高一貫よりも、小中一貫の方が
重要ではないのか？

(答) 推薦してくれる高校に対して注文
をつけられるような制度を作ることが重要

(司会) 指定校についてどう考えるべきか？
何か補足はないか
大学全入時代にいかに、優秀な人材を
集めることができるか？
滋賀大(教)は地域枠をつくった

農学部では地元の学生少ないので地域連携
は考えにくい。地元の学生が入れるような
配慮(例えば推薦入試など)が必要

(司会) 出口の問題、就職率をあげるため
にはどうしたらよいか？
(さくら班に対して)

(答) さくら
卒業生とのつながりが重要。山形大は東北
大よりも入りやすいが、卒業時には東北大
生も入れないような企業に入っている。
それにはOBとのつながりも重要な要因

(司会) びわこ班？

(答) びわこ
フォローが大事。企業に入ったあとにきち
んとフォローすれば、企業の山形大に対す
る印象がよくなる

(答) 長期的にみれば山形大卒の親をもつ
受験生を大切にす

(コメント) 今でてきた方策は私大ではみ
なすでにやっている。ひとつのつながり(兄
弟親子など)を大切にしてくのが大事

(コメント) 入試の不透明性高まらないよ
うな配慮も必要

(司会) 人間的なつながりをつくってゆく
のが重要

(コメント) あまり地域にこだわると、か
えって受験生が減る。逆に世界から人材を
広く求めることが大切。
そのうえで地域のメリットを考えてゆけば
よい

プログラム 「科目設計 1 : 授業名と目標の設定」

グループ作業記録

ゲーム班

司会者 兼重 努
記録者 小池 隆太
発表者 足立 幸子

大学の個性：総合大学，文系・理系が共にある大学

学際教育 総合大学
様々な分野を統合するような視点，文理融合

授業名：（研究の地理学） 「木を見て森も見る」
- 学際研究へのいざない -
学生も分かりやすく。

学習目標 : 学問はそもそも専門分化している訳ではない

専門性を
活かすには
学際的視点
が必要である

学生が自分の専門分野の位置付けを広い視野から行うことができる能力を
身につける
問題解決能力を高める
ex.) 企業のプロジェクトリーダー，老人介護
環境問題 「老人」とは何か

他分野の人といかに**協力**できるか，という「マネジメント」の能力を
高める。

コラボレート，協調する能力

教員も襟を正す

到達目標

知識 学生が広い視野から，自分のしよとすることを位置付ける
技能 学んだことを生かしながら工夫して問題解決にあたる能力
態度 学生が他分野の仲間と協力して，マネジメントすること
のできる能力

ある程度専門性の身についた 4 年生を想定

米沢牛班

司会者 小林 邦勝
記録者 加藤 守匡
発表者 安田 均

地域性に関連する授業：大学と地域の連携

「教養として」とらえる

学生の主体，地域のニーズ，教育目標

- ・企業，自治体などを訪問し...学生が課題を見付けそれを解決する学習
- ・気候と地理的条件を

学習目標「地域に学び・地域に貢献する」

- ・米沢であれば，雪とか，自然とか...地元の企業を知る

授業の目標...学生が課題を探る。見つけれない時は教師のサポート

暮らしと産業に学ぶ

到達目標...地域の学生として学ぶ問題点（課題が明らかになる）が見極め解決できる能力を養う

授業名「地域に学ぶ」



セントラル班

司会者 渡辺 誠一
記録者 高野 勝美
発表者 高野 勝美

君が世界に出て行くために

日本の文化を知る 到達目標
今の日本の状態を知る

授業名：今 世界は，そして日本は
～君が世界に出て行くために～

学習目標：

- ・日本の国際的地位を知る
- ・日本の文化を知る

到達目標

- ・外国と日本の文化の違いがわかる
- ・留学生との会話ができる
- ・必要な世界の情報収集ができる



どんと班

司会者 福山 泰男
記録者 村松 鋭一
発表者 大木みどり

21世紀の初課題

1 環境とエネルギー

生命の尊重

人権

人口・少子化

地域隔差

「100人の村」

100人の村に住んでみると

北京からのスモッグ

CO₂排出量

酸性雨

資源の枯渇

(旅費は学生が半額出す?)

2 21世紀学生

体験

家

食事

交通

学校 ← グループで

学生がテーマを選び

体験的な学習を通じて

問題の認識を深める

資料 現地調査

調査 + フィールド

グループ

実際に行って、住民に会い

話をする

ご 班

司会者 吉田 利信
記録者 金子 優子
発表者 羽鳥 晋由

授業名：お店の作り方

学習目標の設定：

授業の目標：会社設立に関係する

諸手続を理解し、経営計画を策定する

到達目標：

会社設立手続をフローチャートで図解できる

経営計画に必要な事項を盛り込むことができる

全体会記録

総合司会 伊藤 貢士
記録者 川口 正剛

A 班 ゲーム班

大学の個性を發揮する授業
個性 = 総合大学 学際

4 年生対象

授業名：“木を見て森を見る” 学際研究

目標 { 木を見ずにならないようにする
広い視野から自分の研究を位置づけることができる

B 班 米沢牛班

授業名 地域に学ぶ
目 標 地域に学んで地域に貢献する

C 班 セントラル班

授業名：今 世界は，そして日本は
～君が世界に出て行くために～

学習目標

- ・日本の国際的地位を知る
- ・日本の文化を知る

D 班 どんと班

1. 授業名「100人の村に住んでみると」
2. 目 標 体験学習を通じて21世紀の問題の認識

E 班 ご 班

授業名：お店の作り方
目 標：会社設立に関係する諸手続を理解する

〔どんと班へ：実際に行くのか。 実際に行って見て体験させることで問題意識を持たせる
100人の村は南北問題である

〔ゲーム班へ：木を見て森を見るという具体例：学際の見地から環境問題を取り扱う。
身近な題材から選ぶ。
大学の個性との関係
こういう問題だったら，山形大学の誰々先生ということで地図学を学ぶ。
4 年生で教養教育は問題では

プログラム 「科目設計 2 : 授業内容の作成」

グループ作業記録

ゲーム班

司会者 足立 幸子
記録者 鈴木 明宏
発表者 兼重 努

各学部 6 人 36 人を想定
共通問題の例 環境（ゴミ処理）、老人

1. 概論（3回） 講義形式 : 歴史、大学の現状、学際研究事例
2. 共通問題の提示、グループ分け（1回）
3. 学部別で討論、問題の整理（2回）
4. 中間報告 1（1回）
5. 各学部 1 名ずつで新しいグループ : グループ毎に個別問題の設定、調整（1回）
6. 個別問題についての討論（2回） : （論点の整理）
7. 中間報告 2（1回）
8. 個別問題の解決プラン作成（2回）
9. 最終報告（プランの発表会）（1回）
10. まとめ : 私たちは何を学んだか（1回）



米沢牛班

司会者 小松原英範
記録者 安田 均
発表者 小林 邦勝

[定員] 40名 (フィールドワークなので)

[日程]

- 第1～2回 オリエンテーション
科目概要の説明
事例紹介 ゲストティーチャー
- 第3回 課題を提出させる
- 第4回 全体で課題を見せ合い調整
{ グループ分け 4～5名ずつ
{ しかし最終回に提出を求められるのは個人レポート
- 第5回 打合せ
班計画 } 提出
個別課題 }
- 第6回 フィールドワーク
- 第7回 その結果報告
- 第8回 中間報告
- 第9～10回 課題をふまえ
再フィールドワーク
- 第11回 報告のまとめ
- 第12回 優れた報告の紹介
- 第13～14回 各班プレゼンテーション
ゲストによる評価!!
- 第15回 講評
{ 教授としての評価
{ 各自の課題再設定

[予算] クレクレ

ゲストティーチャーの { 交通費 実費
{ 謝礼 1万円×3名

3回で1万 (OB, OGにすぎる)

フィールドワーク 自己負担だよ!!

専任教員は? 班に入りフィールドワークに帯同。受容先に挨拶, お礼

【小テスト】適切な評価を与えよ! 「5」

セントラル班

司会者 藤田 稔
記録者 渡辺 誠一
発表者 藤田 稔

授業内容（授業計画）

- 1．イントロ - 海外旅行に行こう -
ex. バリ島, エジプト, 英国, 韓国
調査項目：料理の特徴（宗教との関係）の指示
- 2．バリ島文化の特徴の発表
- 3．バリ文化とインドネシア文化の違い
- 4．イスラム文化とアラブ世界
- 5．中東の戦後処理 - イスラエルの建国
- 6．アラブの盟主のエジプト（歴史）
- 7．エジプトの古代文明
- 8．植民地帝国（イギリス）
イギリスの戦後処理
- 9．ドイツの戦後処理
- 10．日本の戦後処理
日中, 日韓, 日朝 問題の背景
- 11．日本文化の特徴（1）
- 仏教文化 -
- 12．日本文化の特徴（2）
- 儒教文化 -
- 13．日本文化の特徴（3）
- アメリカ文化の移入 -
- 14．世界の文化と日本の文化
- 15．日本人の生き方を考える
- 討論 -

どんと班

司会者 伊藤 貢士
記録者 村松 鋭一
発表者 福山 泰男

「百人の村に住んでみると」 授業概要

本を読み感想 認識・発見 おどろき
20世紀の負の遺産は？

各専門分野

グループ分け

国連などのデータ・資料 (担当教員から紹介) (各グループに教員1名がつく)

グループ分けして討議 - (教員も一緒に勉強)

「100人の村」

1. ガイダンス 本を読む感想を書く (コメントカード)
2. グループ分け (7~8名) グループ内自己紹介
3. コメントカードの紹介と論評
グループごとに感想・意見
4. グループごとに討議テーマ決定 (1つ)
テーマに応じて担当教員が配当
- 5~7. 講義 (さまざまな分野から)
各教員が自分の専門に応じて、問題に関する現状の
紹介 (国連の資料, NGOの資料, ビデオ)
20世紀の負の遺産の認識
- 8~10. グループ (+教員) 調査
11. パワーポイント作成
- 12~14. プレゼンテーション **2単位**
15. 学生の感想

(海外) 実習

2単位



ご 班

司会者 長谷川 勉
記録者 羽鳥 晋由
発表者 佐藤 慎吾

講 義 名：お店の作り方

受講者数：6人×10グループ = 60人

発表形式：プロジェクター（パワーポイント）を使用

評 価 法：グループ間での相互評価

- 1 週目 ガイダンス（お店を作るまでの条件提示）
- 2 週目 設立のための法制度（講義）
- 3 週目 経営管理法（講義）
- 4 週目 グループ討議（その 1）
- 5 週目 民間経営者による企業経営についての講演
- 6 週目 グループ討議（その 2）
- 7 週目 グループ討議（その 3）
- 8 週目 市内見学（商店，事務所，地場産業，農家など）
- 9 週目 計画書作成（その 1）
- 10 週目 計画書作成（その 2）
- 11 週目 グループ間討論
- 12 週目 最終案作成（その 1）
- 13 週目 最終案作成（その 2）
- 14 週目 プレゼンテーション（1 回目）発表会
- 15 週目 プレゼンテーション（2 回目） //



全体会記録

総合司会 鈴木 渉
記録者 加藤 守匡

質 セントラル班へ
教員の担当数は？分野が多岐にわたるため

答 含数を想定している

質 セントラル班へ → 学生は何名想定しているのか
どんと班へ

答 セントラル班 40名程度
どんと班 70名程度（各グループ7～8名）

質 セントラル班へ テーマが多く、最後の討論はどうまとめるのか？

答 レポートを出してもらい、それについてまとめる
比較文化研究みたいなものを想定している

質 どんと班へ どういった教員の協力を求めているのか？

答 各学部の教員 各教員の変容も求めている

質 米沢牛班へ フィールドワークの時間をどう確保するのか

答 ゲストティーチャー及びフィールドワーク先への配慮を含め複数の時間設定してある

質 ゲーム班へ 具体的なテーマについてはどうなのか

答 ・学際研究の過去の事例を示す。そこから理解してもらう
・課題は与え、学生自分で考えるところ教員のサポートも受けて進める

質 ゲーム班へ 講義名について（タイトルから授業がイメージできないのでは）

答 関心をもってもらうため、副題をつけているのでわかるのでは？

コメント ゲーム班へ

4年生対象ということで、どこに悩んでいるのか（専門性の生かし方も考慮しては）



プログラム 「科目設計3:シラバスの完成」

ゲーム班

授業科目名 木を見て森も見ろ！ - 学際研究へのいざない - 担当教員： 各科1名 担当教員の所属： 各科 開講学年： 4 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態： 演習 開講対象： 全学科 科目区分：	
【授業概要】 ・テーマ 学際研究を通して自信の専門・研究を俯瞰する 例：ゴミ，老人，環境 ・ねらい ・目標 到達目標（4年生想定） ・広い視野から自分の研究を位置づけることができる（知識） ・学んだことを生かしながら工夫して問題解決にあたることことができる（技能） ・他分野の仲間と協力して創造性を高めることことができる（態度） ・キーワード 学際	
【授業計画】 ・授業の順序 講義 { 1. ガイダンス，概論 学際研究とは 2. 学際研究の歴史，大学の現状 3. 事例の紹介 グループ { 4. 学部ごとのグループ作業確認 共通課題の提示 討 論 { 5. } 各グループごとの作業 自習 6. } 各学部の教員が help 発 表 7. グループごとに発表会：プレゼン討論 各学部における貢献の可能性を示す グループ { 8. グループのシャッフル：作業内容の指示 A，B，C，D，E，F 班 自習 討 論 { 9. 方向性の話しあい 10. " 発 表 11. 中間発表会 プレゼン討論 グループ { 12. 具体的な方法を考える 自習 討 論 { 13. 教員6人がアドバイス 14. 最終発表会 プレゼン討論 15. 総括：私たちは何を学んだか 変容の自己確認	
【学習の方法】 ・受講のあり方 問題を解決するプランを設定し，自分の研究を位置づける事が出来る ・予習のあり方 グループ討議に必要な情報を調べてくる ・復習のあり方 討論を通して得られた事を各自整理する	
【成績評価の方法】 ・評価基準 中・最終プレゼン...班 相互評価10×2 レポート...知識...50 ・方法 学部グループ×1 } 30...自習提出 グループ討論×2 }	
【テキスト】	
【参考書】	
【科目の位置付け】 総合領域における専門性の確認	
【その他】 ・学生へのメッセージ 主体的に取り組む事 ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野	

米沢牛班

授業科目名 地域に学ぶ（地域性と関連する授業：大学と地域の連携） 担当教員： 1 名 担当教員の所属： 開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態： 講義及び実習 開講対象： 全学部 科目区分： 総合科目	
【授業概要】 ・テーマ 地域に学ぶ ・ねらい 地域の気候や地理的な条件のなかから，人々と生活や産業に学び，このなかから活性化への課題を見つけ自己の専門性をいかに生かすか，いかに学ぶかを発見する。 ・目標 1．地域の課題を探る 2．地域のニーズやさらなる発展の方向をさぐる 3．地域のくらしと産業を学ぶ ・キーワード 地域，産業，気候，フィールドワーク，班計画	
【授業計画】 ・授業の方法 ・学生が主体となりフィールドワークを行い，まとめ・発表をする ・OBを中心にゲストティーチャーとして招き，事例紹介・講評をしていただく ・日 程 1週： 課題説明(OHP)，オリエンテーション 2週： 事例紹介（ゲストティーチャー） 3週： 各自の課（仮）題提出（どの山に登るべきか）見つけさせたい！！ 4週： 全体で課題を見せ合い調整をする グループ分け（4～5人ずつ） 5週： 打合せ 班計画 } の提出 個別課題 }（小テスト） 6週： フィールドワーク 7週： その結果報告 8週： 中間報告 9週： } 課題をふまえ 10週： } 再度フィールドワーク 11週： 報告のまとめ 12週： 優れた報告の紹介 13週： } 各班のプレゼンテーション 14週： } ゲストによる評価 15週： 講評 教員としての評価 各自の課題再設定（今後の課題）	
【学習の方法】 ・受講のあり方 能動的な課題意識の発見 ・予習のあり方 問題点を探るポイントの的確性 ・復習のあり方 ・まとめる力，発表力 ・今後の課題発見の力	
【成績評価の方法】 ・評価基準 ・ 論述試験 ・ 口頭試験（ディベートも含む） ・ 実地試験 ・ 観察試験 ・方法 ・ 中間報告 30% ・ プレゼンテーション 30% ・ 最終報告 40%	
【テキスト】 ・オリエンテーションレジюме ・ゲストティーチャーの資料	
【参考書】	
【科目の位置付け】 総合科目	
【その他】 ・学生へのメッセージ ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野	

セントラル班

授業科目名 今 世界は、そして日本は 担当教員： 名 担当教員の所属：人文学部，歴史学，宗教学，比較文化論 開講学年： 1 年 開講学期： 後 期 単位数： 2 単位 開講形態： 演 習 開講対象： 全学 科目区分：文化・行動			
【授業概要】 ・テーマ 世界の文化を知る ・ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・国際性を培う ・日本人としての生き方を考える ・目 標 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化を知る ・日本の文化を知る ・キーワード 宗教，イスラム文化，植民地，日本文化，東アジア文化			
【授業計画】 ・授業の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・学生による事前調べと報告 ・教員の補足説明 ・日 程 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> インTRODクシヨン 調査項目の指示が中心 バリ島，エジプト，英国，韓国など 料理の特徴 宗教との関係 旅行ガイド，インターネットの活用 バリ島文化の特徴の発表 バリ文化とインドネシア文化の違い イスラム文化とアラブ世界 中東の戦後処理，イスラエルの建国 アラブ盟主のエジプト（歴史） エジプトの古代文明 植民地帝国，イギリス イギリスの戦後処理 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ドイツの戦後処理 日本の戦後処理 日中，日韓，日朝問題の背景 日本文化の特徴(1) 仏教文化 日本文化の特徴(2) 儒教文化 日本文化の特徴(3) アメリカ文化の移入 世界の文化と日本の文化 日本人の生き方を考える レポートと討論，まとめ </td> </tr> </table>		インTRODクシヨン 調査項目の指示が中心 バリ島，エジプト，英国，韓国など 料理の特徴 宗教との関係 旅行ガイド，インターネットの活用 バリ島文化の特徴の発表 バリ文化とインドネシア文化の違い イスラム文化とアラブ世界 中東の戦後処理，イスラエルの建国 アラブ盟主のエジプト（歴史） エジプトの古代文明 植民地帝国，イギリス イギリスの戦後処理	ドイツの戦後処理 日本の戦後処理 日中，日韓，日朝問題の背景 日本文化の特徴(1) 仏教文化 日本文化の特徴(2) 儒教文化 日本文化の特徴(3) アメリカ文化の移入 世界の文化と日本の文化 日本人の生き方を考える レポートと討論，まとめ
インTRODクシヨン 調査項目の指示が中心 バリ島，エジプト，英国，韓国など 料理の特徴 宗教との関係 旅行ガイド，インターネットの活用 バリ島文化の特徴の発表 バリ文化とインドネシア文化の違い イスラム文化とアラブ世界 中東の戦後処理，イスラエルの建国 アラブ盟主のエジプト（歴史） エジプトの古代文明 植民地帝国，イギリス イギリスの戦後処理	ドイツの戦後処理 日本の戦後処理 日中，日韓，日朝問題の背景 日本文化の特徴(1) 仏教文化 日本文化の特徴(2) 儒教文化 日本文化の特徴(3) アメリカ文化の移入 世界の文化と日本の文化 日本人の生き方を考える レポートと討論，まとめ		
【学習の方法】 ・受講のあり方 継続して出席すること（講義内容が1回毎とぶから） ・予習のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで関係国を調べておく ・参考書で関係国の歴史を調べておく ・復習のあり方 授業でとったノートをもう一度整理する			
【成績評価の方法】 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・途中の授業でのレポートと報告（50%） ・最後の授業での討論（レポート）（50%） ・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・学生のレポートと報告 ・最後の討論 			
【テキスト】 特になし			
【参考書】 ・イスラム文化，イスラム教の歴史 ・帝国主義時代の歴史，第二次大戦後の歴史			
【科目の位置付け】 一般教養科目（文化・行動領域）			
【その他】 ・学生へのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・海外旅行でトラブルにまき込まれない智恵が身につきます。 ・授業を聴いて，海外に出てみよう ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野 歴史学，宗教学，比較文化論			

どんと班

授業科目名 百人の村に住んでみると 担当教員： 各学部（1・2×6）約10名 担当教員の所属： 全学部 開講学年： 1年 開講学期： 前期 単位数： 2単位 開講形態： 講義 開講対象： 全学部 科目区分： 総合
【授業概要】 ・テーマ 21世紀の諸課題の解決に向けて ・ねらい 21世紀の諸課題について学習・調査討議する。教員も学生と平等な立場でグループ学習に参画する。 ・目標 学生が自ら捉えた具体的な問題を理解し、その解決策を探り出す。 ・キーワード 百人の村、課題の発見と解決策
【授業計画】 ・授業の方法 始めに『百人の村』を読み、問題を認識し、発見する。さらに7～8名のグループに教員も加わり、課題の解決の方法を研究・発表する 「百人の村」に住んでみると 授業概要 （2/Cの諸課題：環境・人権・平和・エネルギー...） 青年・ <u>学生が解決</u> 変容 教員の変容 （各分野） 授業計画 1．ガイダンス...教員紹介（複数） 「100人の村」を読んでこさせる コメントカードを書かせる 2．グループ分け（7・8名） 〃 内の自己紹介 3．コメントカードに対する論表 （問題群） 紹介 グループごとに「100人の村」を 読んだ感想・意見を話し合う（自由に） 4．グループごとに討議 諸課題の具体的テーマ一つをえらぶ （エネルギー・少子化なんでも） ・テーマに応じて担当者（教員）を配当 5～7．各教員が例として、自分の専門に近い問題に関する現状の紹介 国連の資料、NGO、ビデオ（持続可能な開発のための10年） 20Cの負の遺産を諸例に現状認識国連の報告等により概説 8～10．各グループと教員が一緒に調査・討論 11．パワーポイントによる作成 12～14．プレゼンテーション - グループあたり発表20分 質疑10分 15． <u>学生の感想</u> 変容 2単位 ----- <u>実習</u> （海外） 2単位 卒業後の社会貢献
【学習の方法】 ・受講のあり方 グループ学習中心なので、グループ内での積極的な活動（調査・討議・発表）が望ましい ・予習のあり方 ・復習のあり方
【成績評価の方法】 ・評価基準 ・コメントカード、グループ活動、プレゼンテーション、レポートについて妥当性、信頼性、論理性の観点から総合的に評価する。
【テキスト】 百人の村ほか適宜配布プリント
【参考書】
【科目の位置付け】
【その他】 ・学生へのメッセージ ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野

ご 班

授業科目名 お店の作り方
 担当教員： ご 班
 担当教員の所属： 人文学部
 開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態： 講義・演習
 開講対象： 全学部 科目区分： 政経・社会

【授業概要】

- ・テーマ 企業設立のための諸手続を理解し、実戦的にその経営計画を作成する。
- ・ねらい 企業設立に関わる法律や経営管理などについて理解を深め、職業意識と労働意欲を高める。
- ・目標 会社設立手続をフローチャートで図解できる。
経営計画を立案し、必要事項を盛り込むことができる。
- ・キーワード 企業設立、商法、税法、労働関係法、経営管理、市場調査

【授業計画】

- ・授業の方法
ガイダンスを行い、前提となる知識に関する講義を行う。グループに分かれ、設立する企業についての計画を立てる。経営者による講演や企業の見学を行う。計画案を作成し、プレゼンテーションを行う。
- ・授業形態
6人×10グループ（60名）
- ・授業内容

1. ガイダンス	9. 計画書作成 - 1
2. 会社設立に係わる法制度の説明	10. " - 2
3. 経営管理法	11. グループ間討論（相互チェック）
4. グループ討議 - 1（インターネット検索の利用）	12. 最終案作成 - 1
5. 民間経営者からの「企業経営に関する講演」 山大OB	13. " - 2
6. グループ討議 - 2	14. プレゼンテーション - 1（パワーポイント使用） 学生間で相互評価
7. " - 3	15. " - 2
8. 市内見学（商店、事務所、地場産業、農業） レポート提出	

【学習の方法】

- ・受講のあり方 グループ内で討論を通じて分担し、共同して経営計画を作成する。
- ・予習のあり方 講義内容を踏まえ、インターネット等で必要な情報を収集しておく。
- ・復習のあり方 作業記録を作成する。

【成績評価の方法】

- ・評価基準
講演・見学のレポートを作成・提出
プレゼンテーションの教員による評価と学生及び講演者による評価
- ・方法
レポート点 20点
経営計画書及びプレゼンテーション 30点
50点

【テキスト】

プリント配付

【参考書】

【科目の位置付け】

一般教育科目 政経・社会

【その他】

- ・学生へのメッセージ
- ・履修に当たっての留意点
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

全体会記録

総合司会 渡辺 誠一
記録者 高野 勝美

Q：A 班へ キーワード「学際」を具体的にしたらどうか

A：問題解決，マネージメント，環境

Q：B 班へ キーワード「気候」の意

A：山形の雪，生活を意味。克冬の生活のあり方

Q：B 班へ 地域課題を学び，その解決策についてはやるか？

A：これから学ぶ専門性を生かすための学び方を重視。

解決策が浮かぶのが自然である

それはそれで好ましい

Q：E 班へ グループに対する評価で 8 割は重すぎないか。個人評価に対して。

A：しかたない。ガイダンスで明言する。

班分けはどうするのか 適切な教員による指導

作業記録（役割を明記）を出してもらうことも考えている

Q：D 班へ 「教員も学生も平等な立場」でいいのか

A：教員が教員として動けば，グループ調査にならなくなる。フレンドリーなスタイルを大事にしたい。

チュートリアル・アドバイザーとしての教員の役割は大事ではないか

潜在的チュートリアルでいいのではないか

姿勢としてはいいが，学力低下時代にマッチするだろうか

コメント

D 班へ 「総合的に評価」ではなく，具体的な方がいい

・評価の複数化が求められている。形成的評価は，指導の一環としての評価ではないか

・到達目標への達成度を明示するのが，教養科目は難しい

